

令和 6 年度 第 1 回沖縄県がん診療連携協議会 離島・へき地部会議事要旨

日 時：令和 6 年 7 月 23 日(火) 15：00～16：30

場 所：Zoom を利用した Web 会議

参加者：15 名

赤松道成（北部地区医師会病院）、安次嶺宏哉（沖縄協同病院）、有銘みどり（北部地区医師会病院）、西原政好（県立宮古病院）、松村敏信（県立八重山病院）、本仲寛美（県立宮古病院）、名嘉律子（県立八重山病院）、友利寛文（那覇市立病院）、戸板孝文（県立中部病院）、吉田幸生（県立中部病院）、外間早紀子（沖縄県保健医療部健康長寿課）、真栄里隆代（ゆうかぎの会）、田盛亜紀子（やいまゆんたく会）、有賀拓郎（琉球大学病院）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター）

欠席者：1 名

江藤甚之助（やいまゆんたく会）

陪 席：1 名

谷口典子（琉球大学病院がんセンター）

【報告事項】

1. 令和 5 年度 第 5 回離島・へき地部会議事要旨について

赤松部会長より資料 1 に基づき、令和 5 年度第 5 回離島・へき地部会議事要旨について説明があった。

2. ロジックモデルの各指標の確認について

増田委員より資料 2 に基づき、ロジックモデルの各指標について説明があった。

赤道部会長より、検診がん種別早期がん割合について、沖縄県の検診と検診以外の割合は出ているものの、その母数がわからないため、全国値と比較するのが難しいのではないか。検診、検診以外に「県内の早期がん割合」という項目があると比較がしやすいと提案があった。

3. その他

特になし。

【協議事項】

1. 今年度の委員及び部会長、副部会長の選任について

昨年度に引続き、部会長：赤松委員、副部会長：西原委員、松村委員で決定した。

2. ロジックモデルを用いての今年度の活動計画について

Web を用いたセカンドオピニオンの体制構築について、吉田委員より、まずは中部病院の体制構築から始めるべきだと考えており、管理者会議で相談する予定だがまだ目途が立っていない状況であると報告があった。

3. 療養場所ガイドについて

- ・今年度中に出版を目指している。原稿完成次第個別にメールで送るので意見が欲しいと増田委員より発言があった。
- ・赤松部会長からは、送られた資料に関する意見があり、肝がんの治療に関する部分で「肝動注化学療法」が「TAI」と訳されているが、「TAIC」ではないかとの指摘があり、増田委員が修正することとなった。

4. 次回の開催日程について

9月初旬を予定。

5. その他

- ・真栄里委員より、ロジックモデルに若年がん患者在宅療養生活支援事業や補正具購入支援の項目を追加したいと提案があった。増田委員より、在宅医療とアピアランスケアの指標として取り入れていくのがよいと思われるので、ベンチマーク部会で検討すると回答があった。松村副部会長より、アピアランスケア支援事業について、石垣市では8月から開始することになったと報告があった。
- ・沖縄県離島患者等通院費支援事業を利用したがん患者の割合が48%というデータを受けて、真栄里委員より、医療者から患者さんへ利用を呼び掛けて100%に近づけるようにしていただきたいと要望があった。西原副部会長より、基本的に告知の際に、通院費支援事業の説明を必ずしているので、今後改善される見込みがあると回答があった。赤道部会長より、渡航費支援を受けた患者のうち、がん患者の割合が48%ではないかと指摘があり、事務局で再度確認することになった。
- ・松村副部会長より、沖縄県が「がん診療を行う医療施設一覧」を作成することを目的におこなっている「がん診療実施状況調査票」について意見があった。学会認定施設であることが施設一覧に掲載される条件となっているが、例えば胃がんの場合は、学会認定施設でないと、がん診療は行っていないということになる。専門医を養成している関連施設も対象施設に加えてもいいのではないかとのことだった。